

ヴァル=ド=マルヌ バラ園： 伝統と革新の合間に

ヴァル=ド=マルヌ バラ園は、**独特の自然遺産**を集めた魅力的な場所です。園芸の歴史において、花の女王として親しまれるバラに捧げられた最初の庭園です。ここには、シュラブ（低木）、横張り性、直立性など、多種多様なバラの木が演出され、フランス式庭園の新しい解釈が採り入れられています。また、支柱（パーゴラ、アーチ、花輪、格子型塔など）をつたわせたランブラーやクライマーが立体感を生み出し、美しい景観をよりいっそう引き立て、庭園を飾ります。

広さ1.5ヘクタールに及ぶこのバラ園は、さまざまなコレクションからなる13の庭園で構成されています。アジアからアメリカまで、また古代から現代まで、約3200あまりのバラの品種が保存された、世界でも唯一のバラ園です。

「バラ園は優しさと幸福の所産である。」

単に美しいだけでなく、人間性の問題にかかわるものだ...」

オクターヴ・ミルボー、フランスのジャーナリスト、作家（1848～1917年）

以下の観点から、植物学における真の宝庫となっています：

- 歴史的：1894年に設立された、**世界最初のバラ園**。庭園は**歴史的記念物の補充目録**に登録されています。
- 科学的：オールドローズの変種コレクションは、世界でも最も重要なひとつで、フランス植物専門収集協会（Conservatoire français des Collections Végétales Spécialisées）の認定を受ける**真の種保存施設**となっています。
- 文化的：その緑豊かな劇場は、詩人、俳優、ダンサーなど数多くの著名人を受け入れ、今日もなお**記念祝典の舞台**となっています。

I. 時を超える庭園、確かな価値

1892年、ジュール・グラヴローはライにある地所を購入すると、バラのコレクション収集を始め、品種の交雑と研究に取り掛かりました。

彼のコレクションはたちまちのうちに大きくなり、1894年には1600あまりの種や変種を数えるに至ります！ 1899年、彼は当時有名だった造園家エドゥアール・アンドレに、その後世界で最初のバラ園となるこの庭園の設計や構成を依頼しました。

「バラの庭園」は園芸の歴史において重要な一段階となりました。一品種のみを収集した最初の庭園としてのこのバラ園が、同時に観賞用庭園にもなり得ること、そしてバラの木が1つの庭を構成するに十分な多様性を有していることを証明したのです。

II. 重要な任務：植物遺産の保存

庭園の対称軸を構成するバラ園の中央部は、アンリ・グラヴローの設計によるものです。「最も美しいバラの庭」と呼ばれ、このフランス式庭園に代表される構造のすばらしさを、バラの木のみを使って表現した見事な一例となっています。

こうして、エドゥアール・アンドレとグラヴロー父子は、庭園の新しい様式を生み出したのです。

「バラ園」

1967年からは、ヴァル＝ド＝マルヌ県がバラ園を管理しており、開設100周年の年に『ヴァル＝ド＝マルヌ バラ園』と改名されました。

1991年に、フランス植物専門収集協会（CCVS）によりオールドローズの国内基準として認定されました。従って同県には、ジュール・グラヴローの名に恥じない後継者として、生物多様性を保護し、またバラ園の植物遺産の価値を多くの人に知ってもらおうという重要な義務があります。

10名の庭師が、1.7ヘクタールにわたるバラ園と隣接する14ヘクタールの庭園の手入れにあたり、花壇の植え替え、苗床での接木、剪定などを行っています。

この庭園の素晴らしさは広く認められ、ヴァル＝ド＝マルヌ バラ園は、歴史的記念物の補充目録として登録されました。これによって、このバラ園の景観の重要性が証明されただけでなく、今後の発展のために適切な管理が行われる体制が確立しました。

収集されているバラの品種が豊富であり、栽培の方法が非常に特徴的であるため（長期にわたる高密度での単作）、当バラ園は優れた研究の場となっています。近年、ジェ教授率いるリヨン大学分子生物学および植物化学研究所、ポークーゼのGEVES、国立自然史博物館、アンジェのINRAセンター、BRG（遺伝資源事務局）、CCVS（フランス植物専門収集協会）などとの協力の下に、園芸および植物学分野での複数の研究が行われました。

III. 祝祭の伝統

1906年、ジュール・グラヴローは、バラの庇護の下に集い、散文、詩、演劇などあらゆる文学形態でバラを称賛する文学者たちの団体「ロザティ」に敬意を表して「バラの劇場」を作りました。この緑あふれる劇場は、観客用の腰掛、舞台、さらにはプロンプター・ボックスまでが芝生で覆われ、全てに植物が用いられていました。

そのころからずっと祝祭的な文化行事が行われてきた当バラ園は、ジャン・コクトーの詩やイザドラ・ダンカンによるバレエの舞台となっただけでなく、バラ園の100周年記念や、ミッシェル・リー、マリー・シェ、アニー・コルデイなどによる魅力的なバラの命名式も行われてきました。アンリ・ヴェルヌイユ監督の映画「Mayrig」の撮影もここで行われました。

ジュール・グラヴローによって作られた緑の舞台は今も健在で、とりわけ「Parfums de musiques（音楽の香り）」と題されたコンサートの数々がここで行われています。これは地球上の無数の伝統音楽をテーマにしたフェスティバルです。

「Rendez-vous aux jardins（庭園での集い）」は、庭園に敬意を表してフランス全土で行われる文化的な催しです。毎年6月の最初の週末には、ヴァル＝ド＝マルヌバラ園で特別なイベントが開催され、実演によるワークショップ、ガイド付き見学、その他各種催しが行われます。

また、文化遺産の日は、毎年のお休みの期間に入る前にバラ園をもう一度堪能する絶好の機会となっています。

楽しみや喜び、美しさのための庭園、ためになる庭園、バラのさまざまな品種を展示する庭園、学問のための庭園…。このように、当バラ園は、完璧な均衡を持つ完成された作品のようであり、時間と空間への旅や、幾時代にも渡るバラの進化のパノラマを提供し、全ての感覚と心を満たしてくれるのです。